

～高崎市地震防災マップ～
揺れやすさマップ
吉井地区
平成22年2月 高崎市

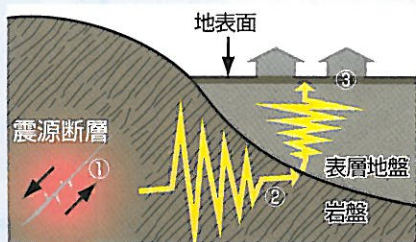
地震の揺れについて

地震の揺れは、

- ①震源断層で破壊が起こり、
- ②その破壊で生じた揺れが地下の岩盤を通じて地表付近の層に伝わり、
- ③表層地盤によって揺れが増幅され地表に伝わります。

揺れの大きさは、

- ・震源断層から地表付近までは、概ね震源断層からの距離に応じて減衰していきます。
- ・表層地盤では揺れの増幅の仕方が表層地盤の性状によってかなり異なります。一般的には、表層地盤が軟らかければ揺れは増幅しやすく、硬ければ増幅しにくい傾向があります。
- ・地形が大きく変化するような場所では、数十m離れただけでも揺れ方が大きく変わることがあります。



この図で想定している地震

高崎市周辺には、大きい地震を発生させるような活断層として、高崎市の直下をとる「関東平野北西縁断層帯」の存在が知られています。この図は、高崎市で起こりうる最大の地震として、「関東平野北西縁断層帯」でマグニチュード8の地震が発生した場合を想定しています。国の詳しい調査結果によれば、この断層帯では、1万年以上の間隔で大きな地震を繰り返し発生してきたことがわかっています。この断層帯での以前の大きな地震は約6200年前～2500年前にあったようです。そのため、次に活動するのは数千年以上先になると予想されます。したがって、このような激しい揺れに見舞われる可能性は今のところ大きくありません。

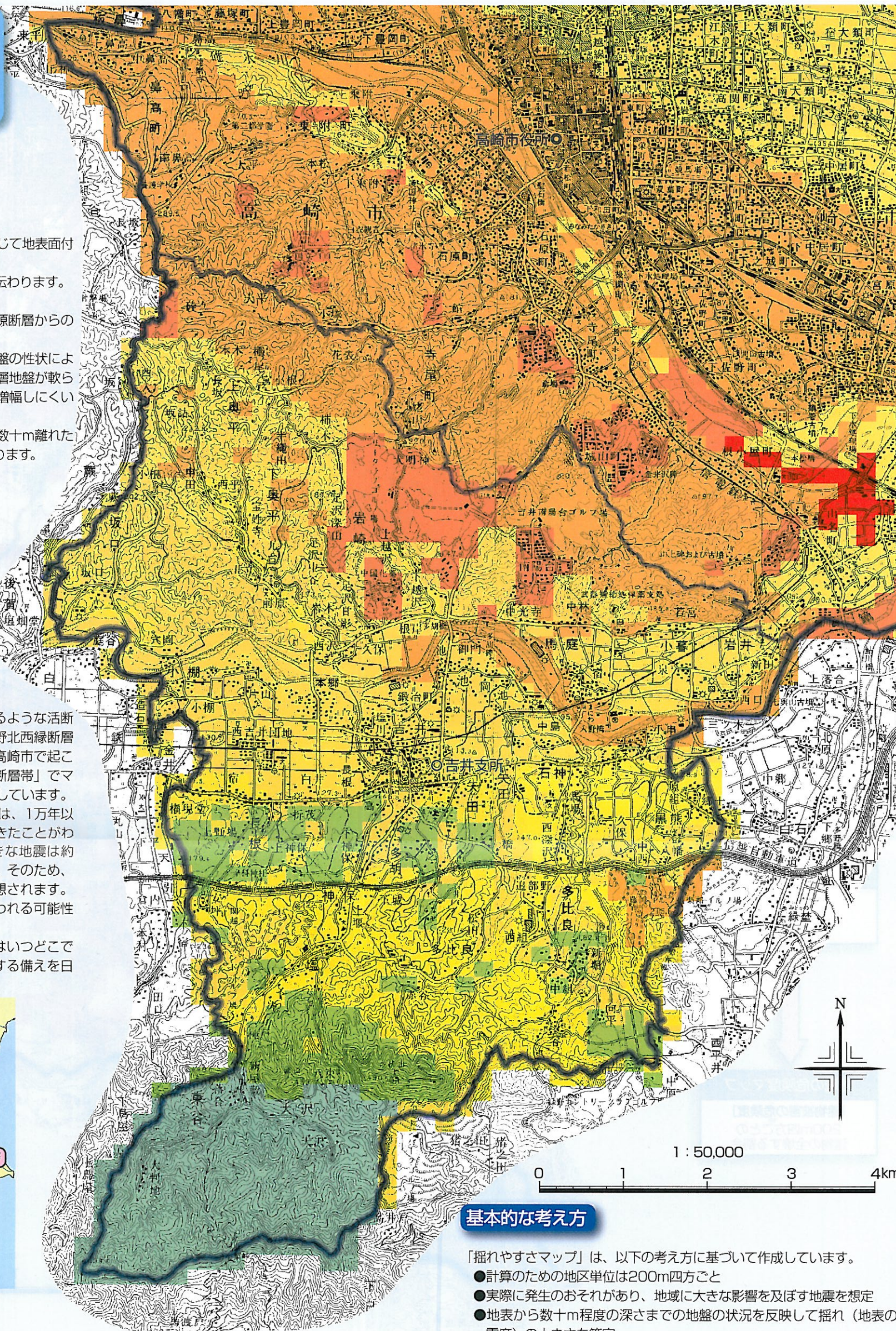
なお、このような大規模でなくても地震はいつどこで発生してもおかしくありません。地震に対する備えを日頃から心がけてください。



凡 例

震度階級	震度7	震度6強	震度6弱	震度5強
人間の体感・行動	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くことができず、飛ばされることもある。	立っていることが困難になる。	立っていることが困難になる。	大半の人が、物につかまらなと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。
屋内の状況	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが増える。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。
屋外の状況	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。掘付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
耐震性の高い木造建物	壁などにひび割れ・亀裂が多くなる。まに傾くことがある。	壁などにひび割れ・亀裂が見られることがある。	壁などに軽微なひび割れ・亀裂が見られることがある。	――
耐震性の低い木造建物	傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。	壁などに大きなひび割れ・亀裂が入るものが増える。傾くものや、倒れるものが増える。	壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。瓦が落下したり、建物に傾いたりすることがある。倒れるものもある。	壁などにひび割れ・亀裂が見られることがある。

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。（承認番号 平21関復、第147号）」



基本的な考え方

- 「揺れやすさマップ」は、以下の考え方に基いて作成しています。
- 計算のための地区単位は200m四方ごと
 - 実際に発生のおそれがあり、地域に大きな影響を及ぼす地震を想定
 - 地表から数十m程度の深さまでの地盤の状況を反映して揺れ（地表の震度）の大きさを算定
 - 地域の揺れやすさとして、起こり得る最大震度を200m四方ごとに表示

この地震防災マップは、内閣府「地震防災マップ作成技術資料」（平成17年3月発行）で示されている方法に従って作成されています。